

## 大木さんの歩み

平成14年(15歳)

平成15年(16歳)

飛び入学

平成16年(17歳)

平成20年(21歳)

平成20年～(21歳)

小・中学生の頃

高校生の頃

飛び入学制度との出会い

千葉大学

千葉大学

東北大学大学院

**モノづくりに興味があり、ロボコンが好きだった**

小学生の頃は模型のキットを組み立てたり、ロボコン番組を夢中になって観ていました。中学2年生の時には千葉市の「火星ローバーコンテスト」に参加。将来は高性能な移動探査ロボットを開発したいと考えはじめました。



**論文の書き方を勉強し科学誌に投稿**

千葉市のコンテストは小・中学生が対象で高校生になると参加できなくなりましたが、その後も個人的にロボット作りを継続。自分で書き方を勉強し、中高生向けの科学誌に移動ロボットに関する論文を投稿しました。



**研究を進めるため早く大学へ行きたかった**

高校2年の夏に飛び入学制度を知りました。ロボットについて学ぶには大学に行って研究を進めるしかないと考えて、1年早く大学生になれる先進科学プログラムに魅力を感じ、ダメで元々という気持ちで挑戦しました。

**恵まれた勉強環境が待っていました**

入学して最初に感じたのは、環境が整っているということ。専用の学生室にはひとりひとりの机が用意され、1年次の夏には海外研修(米国)もあります。また、教授陣との距離が近く、さまざまなテーマについて1対1で議論できたことが印象的でした。



**授業も課外活動も濃密な4年間**

**宇宙探査ロボットの研究ができる大学院へ**

宇宙探査ロボットやレスキューロボットの先進的な研究をしている東北大学大学院の研究室に進学。深夜の地下鉄構内、伊豆大島の火山砂漠など、日本各地でフィールドテストを実施して、不整地を移動するロボットの研究に没頭した5年間でした。

